

神河町吉富区の春日神社と玉垣

酒向 あやか

1. 春日神社

平成 29 年（2017）8 月 27 日から 29 日の 3 日間、神河町吉富区にある春日神社の玉垣に書かれている銘文について、調査を行った。春日神社の由緒解説板によると、祭神は武雷命、齊主命、姫大神、天児屋根命（以上、春日大社の四神）、大刀雄命、大王命であり、由緒は光仁天皇国家守護の為、南都春日神社より遷宮されたとある。

また、聞き取りによれば、現在、神宮大麻の配布数は 140 戸で、氏子圏は吉富区だけだという。

2. 玉垣の配置と大きさ

玉垣には、寄附者の氏名と住所、また商売人については屋号などが刻まれていた。玉垣は、本殿の周囲に 263 本、本殿に向かう階段を上って左にある「社殿改築記念碑」の背後に 12 本、右にある円柱の背後に 20 本が配置されており、合計 295 本を確認した。なお、円柱にも氏名が記載されていた。

玉垣は、大きさによって 4 つに分類することができた（図 1）。大きいものから玉垣 1～玉垣 4 とすると、玉垣 1 は高さ 204.8cm 幅 29.0cm、玉垣 2 は高さ 137.5cm 幅 23.0cm、玉垣 3 は高さ 105.0cm 幅 20.3cm、玉垣 4 は 87.5cm 幅 15.5cm であった。

本数と寄附額についてみると、玉垣 1 は 2 本あり、寄附金の中で最高金額となる 20 円を寄附した 2 名の氏名が刻まれていた。玉垣 2 は 8 本あり、寄附額は 7 本が 10 円で、1 本が 3 円であった。玉垣 3 は 44 本あり、寄附額はすべて 5 円であった。玉垣 4 は 241 本あり、寄附額は 5 円と 3 円が混合していた。

3. 玉垣寄附帳

吉富区の個人蔵の文書のなかに春日神社「玉垣寄附帳」がある。記載されているのはすべて吉富区以外の者であり、吉富区については帳面が区別されていたようである。

寄附帳に記載された現神河町域居住の寄附者の分布を調べると（図 2）、吉富区から一里（約 4km）以内からの寄附が多いことがうかがえる。

玉垣の現地調査結果と寄附帳の内容を比較したところ、玉垣の本数は 295 本であったのに対し、寄附帳に載せられていた寄附者の合計数は 382 人であり、一致しなかった。単純にみれば寄附者の方が多くなるが、一方で、玉垣に刻まれていた氏名を寄附帳記載の氏名と照合したところ、寄附帳には記されていない人物が 48 名確認された。こうした齟齬が生じる一つの理由は、吉富区の寄附者が寄附帳に記載されていない点にある。また、今回は十分に確認でき

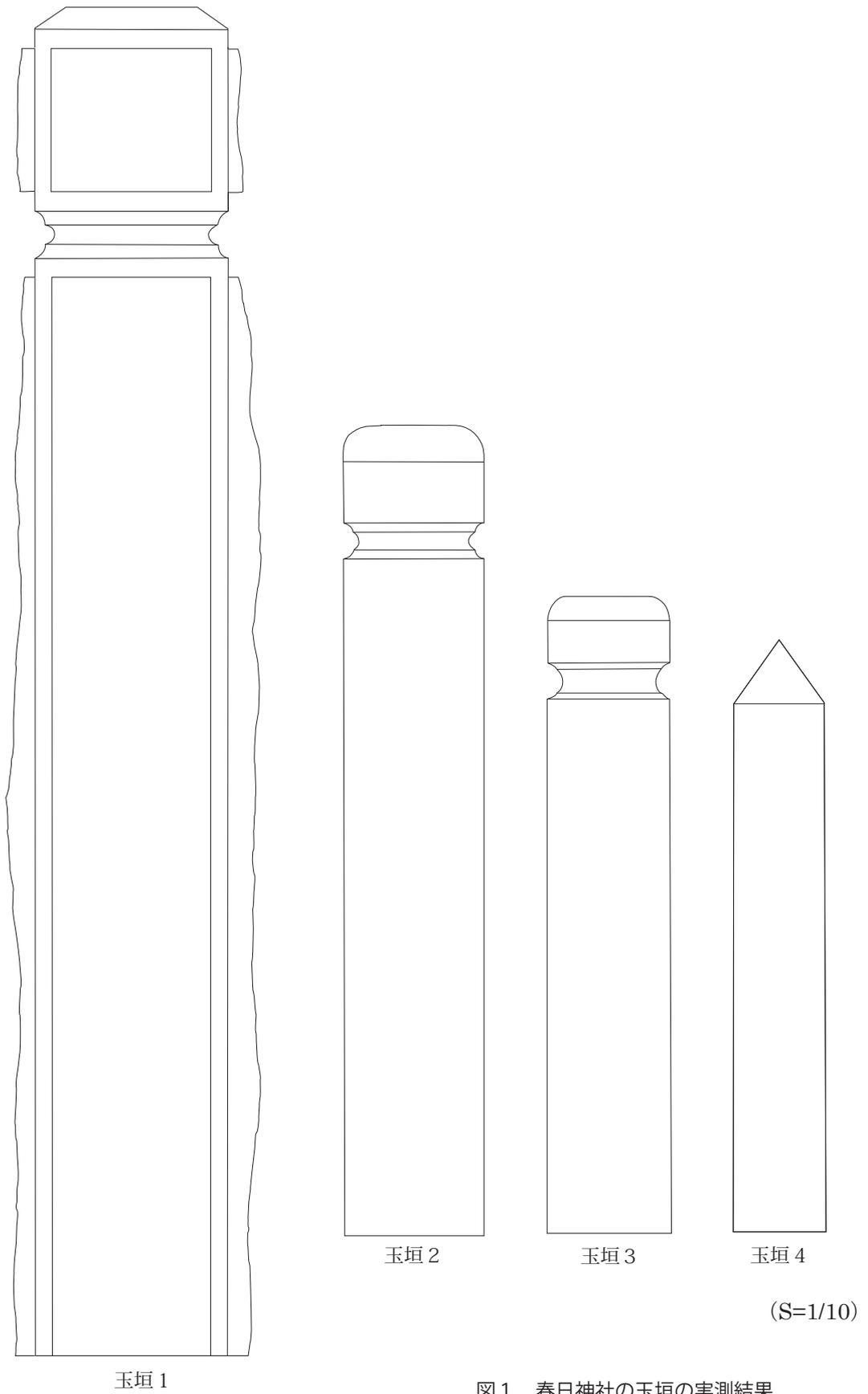


図1 春日神社の玉垣の実測結果

に深くかかわる人物である。丸尾は、福井又次郎の次男で株式会社生野銀行取締役丸尾八右衛門の養子となり、明治20年（1887）に県立神戸医学学校を卒業し、伝染病研究所に入り講習修業した。医師、徴兵検査医院、生野町会議員、学務委員、朝来郡会議員、同議長、兵庫県会議員、同郡部会副議長、同副議長となり、また郡教育衛生会長、町農会長、郡農会、県畜産会各評議員となる。なお、衆議院の当選は一回のみで、寄附当時は議員ではなかった。『衆議院第30回結核予防に関する建議案委員会』（衆議院事務局 1913）によると、丸尾は医者であったことから、衆議院において結核予防に関する建議案委員会の議長を務めている。

【謝辞】

今回の調査では、学芸員の竹国よしみさん、吉富区区長の桐月さん、春日神社宮総代の藤原さんをはじめ、多くの方に大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

【参考文献】

- 小林丈弘（2010）「京都公民会と都市商工業者」、『キリスト教社会問題研究』同志社大学
衆議院事務局（1913）『衆議院第30回結核予防に関する建議案委員会』印刷局
兵庫県神崎郡教育会編（1976）『神崎郡誌』
兵庫県神職会（1938）『兵庫縣神社誌』中巻 臨川書店